

	発行者の略号	東書	教出
	書名	新編 新しい社会 地理	中学社会 地理 地域にまなぶ
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	○持続可能な社会の実現に向け、「これからの社会を生き抜く力」を育むことを目指す。また、課題をつかむ・追究する・解決するという学習のプロセスを取り入れ、課題解決的な学習を実現し、深い学びにつながる工夫がされている。	○「主権者として、ともに生きる力を育む教科書」「社会を読み解き、学び合える教科書」「市民的教養の基礎・基本が身につく教科書」の三つの方針に基づいて編集されている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①難解な用語については「もっと解説」を本文ページの各部に記載し、単元の終わりに「ワードチェック」を設けることで知識の定着を図っている。また写真や分布図、グラフなど資料の読み取りについては、「スキル・アップ」の項目で身に付けた技能を活用できるようになっている。 ②一単位ごとに「チェック&トライ」の項目を設け、思考力・判断力・表現力等を高められるよう工夫されている。また各章の終結部において多くの思考ツールを活用することで思考を整理し、学びを深められるようにしている。 ③随所に「インタビューコラム」を設け、実際に働く人々の仕事や生活を知ることによって自らの生き方やキャリア形成について考えられるよう工夫されている。また「未来にアクセス」の項目においては、世界や日本の各地域が抱える課題について、これまでの取り組みや解決に向けてこれからどうしていくべきか、主体的に取り組む態度を養える工夫がされている。	①本時見開き右ページの最後に、学習したことを整理しながらまとめる活動として「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるように構成されている。 ②本時見開き右ページの最後に、「確認」を受けて学習したことを基に表現する活動として「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるように構成されている。 ③地理的分野の最後のまとめの学習として、第3編・第4章「地域のあり方」が位置付けられており、地域や社会を持続可能なものにしていくように配慮されている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	○第3編第1章「地域調査の手法」においては、自分たちが住んでいる身近な地域にはどのような課題があるのか、調べたり発表したりする場面を設けることで地域教育を推進できる流れとなっており、市町の方針に関連している。	○「六次産業化」や「持続可能な地域づくり」など、地域を活性化するための人々のより具体的な工夫や努力について考察を深めるように構成されており、各市町の方針にも合致している。
（ウ）内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「みんなでチャレンジ」の項目においては、小集団での対話的な活動を促すことで、協働的な学びにつなげ、他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整していくことで主体的に学習に取り組む態度が養える工夫がされている。 ②大気の動きや天気の変化などの自然地理学では理科とつながるところがあり、該当する箇所には教科関連を示すリンクマークが付けられており、教科を横断した学習の確認ができるようになっている。 ③随所にグループ活動などの小集団での参加型学習が取り入れられ、概ね適切である。 ④全体を通して「伝統・文化」に関する題材を積極的に取り上げ、伝統文化への理解を深められる工夫がされている。 ⑤「地域調査の手法」においては、聞き取り調査の仕方や地図の作り方について触れるなど、体験活動の充実が図られている。 ⑥各単元の導入部に、小学校で学習した内容を用語や写真で振り返るページが設けられ、QRコンテンツでは既習事項を振り返るなど小・中の学習を円滑に接続できる工夫がされている。 ⑦各所に二次元コードが配置され、内容の理解につながる動画やシミュレーションなどのコンテンツを利用できる。 ⑧「フラットデザイン」や「UDフォント」を使用するなど、全ての生徒が学びやすい工夫がされている。また学習の流れを「導入部」、「展開部」、「終結部」の形で構造化し、学んだ内容を深められるよう配慮されている。 ○1時間の学習の流れを生徒がつかめるように工夫がされており、学習に取り組みやすいように配慮されている。	①「確認/表現」のコーナーでは、学習したことをもとに「調べよう」、「まとめよう」などの課題が多く設定され、知識・理解の確認や表現活動を行うことで1時間の学習を振り返ることができ、加えて、自分の意見が他者との交流を経てさらに深まっていくように配慮されている。 ②見開き右ページ下に、「関連マーク」を付して歴史的分野・公民的分野との連携を図る工夫がされている。 ③地域調査の方法を学ぶ学習において、テーマを決めてまとめたレポートについてクラスの中で話し合ったり、意見交換を行ったりするなどの対話的学習の場面、班ごとに調査結果を発表する場面を設けている。 ④日本の世界遺産・無形文化遺産・伝統的建造物などに関わる学習を通して、伝統と文化の意義や、継承していくことの大切さについて理解を深めるように留意されている。 ⑤さまざまな地図について、その読み解き方や有効な活用の仕方などに関して、丁寧な説明と共に学習活動が深まるように配慮されている。 ⑥「地理にアプローチ」には、小学校で学習した地図のきまりや地図帳の使い方、グラフの種類などを振り返る活動を位置付けている。 ⑦情報化の進展に伴う社会や生活の変化、情報の有効な活用について理解が深まるように配慮されている。 ⑧ワークシートのように直接書き込む作業活動も取り入れるなどの工夫が図られ、発達段階に応じて無理なく学習することができる内容になっている。 ○学習の見通しなどを端的に表示し、その見通しに沿って学習ができるように配慮されている。	
（エ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②イラストや資料を掲載し、資料に付した「図番号」を本文中にも付すことで、効果的に学習が進められる工夫がされている。 ③資料を豊富に掲載することで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組める工夫がされている。	①概ね適切である。 ②折り込みのページを中心に、興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学ぶ楽しさや意欲が高まるように配慮されている。 ③主要な文字には教育的配慮を施した書体を用いているほか、文章は平易な表記・表現とし、側注や巻末には用語解説も掲載するなど、読解に負担がないように配慮されている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方（地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方）」を働かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。	①教科書の冒頭に「地理を学ぶ5つのミカタ」という項目を設け、各所に位置や分布、人と自然との関わりなどのテーマを掲載することで、意識して学習を進められるようになっている。	①本時ページの学習の導入部分のキャラクターの吹き出しや、「THINK!」のコーナーの問いなどを通して、資料の読み取りに際してはたらかせるべき視点や考え方の示唆を丁寧に示す工夫がされている。
	②社会的事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	②単元全体を貫く「探究課題」を立てる導入の活動から、1単位時間ごとの「学習課題」を解決しながら進める問いの研究、「探究課題」を追究するまとめの活動の形で、問いを軸にして単元を構造化し、学習を進めていくことで社会的事象を多面的・多角的に考察・表現できる工夫がされている。	②巻末には学習資料として「用語解説」や「世界の主な家畜」「世界の主な農作物」などが掲載され、生徒の地理的認識を高めるように配慮されている。
	③課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	③「探究課題」を立てる導入の活動から、問いの研究→まとめの活動とつなげていくことで、学習の流れを整理し、課題を追究・解決する活動ができる工夫がされている。	③本時ページのタイトルには、学習内容を象徴する主題と学習事項を表す副題を明示することで、生徒が課題意識を明確にできるように配慮されている。

	発行者の略号	帝国	日文
	書名	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	中学社会 地理的分野
（ア） 教科・ 種目に 共通な 観点	①編集の趣旨と工夫	○地理的な「見方・考え方」を働かせながら異文化理解や国土理解を深め、地域の課題を「自分ごと」として捉え、解決への道りを主体的に考える「社会参画の意識」を育む工夫がされている。	○我が国の領土及び世界の諸地域に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、日本や世界の地理的特色を多角的・多面的に考察する程度を養うことで、幅広い知識と教養を身に着ける工夫がされている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「技能をみがく」コーナーが設けられ、地図や各種グラフの読み取りなど基礎的な技能が習得しやすくなっている。 ②「学習を振り返ろう」では、地図や写真、思考ツールなどを用いて、学習した知識をもとに自分の考えを整理・構造化して、課題解決を図っていくプロセスが学べるようになっている。 ③章・節が1つの単元のまとまりとして関連しており、見通し・振り返り学習を積み重ねることで、自分の考えを深めながら主体的に問題解決に向かう工夫がされている。	①見開き2ページとし、何を学ぶのか明確にされている。確認コーナー・表現コーナーが設けられ、知識及び技能の確実な習得を狙いとしている。 ②トライ・スキルアップ・資料活用コーナーなど、随所に生徒が自分の言葉で表現できる工夫がされている。 ③単元の学習内容を端的にとらえる図版を掲載し、トライやキャラクターの吹き出しに生徒が自ら取り組みやすくなる工夫がされている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	○地域的・地球的課題の解決に取り組む視点を養う「未来に向けて」のページを設けたり、持続可能な社会の実現に向けた探究活動に取り組む「地域のあり方」では、身近な地域等の課題の分析と、その解決に向けた構想に取り組むことで、主体的に社会形成に参画する態度を養えるようにしたりしている。	○持続可能な社会を実現するための諸課題を地球的課題や地域の課題として取り上げ、これらの諸課題を自らの問題として捉え、その解決をめざして行動できる態度を培うことができるように構成している。
	（7）内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「アクティブ地理」では、正解が1つでない課題解決学習の中で意見交換や発表を行い、様々な立場を踏まえて合意形成を目指していく学習ができる工夫がされている。 ②「小・歴・公のアイコン」や「小学校・歴史・公民・他教科の関連」を示し、既習事項を踏まえて、物事を多面的・多角的に捉える足がかりを設けている。 ③見開き1時間の紙面に「確認しよう」「説明しよう」が設置され、学習内容を自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行えるように工夫し、言語能力の育成を図っている。 ④各地域の文化財や伝統行事などが写真で紹介され、日本の伝統や文化への理解が深まる工夫がされている。 ⑤「アクティブ地理」では、持続可能な観光や地域の自然環境を生かした発電方法など現代社会の課題に対する解決策を考える学習を設けている。 ⑥「やってみよう」では、小学校で学習する都道府県や地図帳の活用に関する内容を思い出しながら、より深化させる学習ができるよう工夫されている。 ⑦資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」が設けられ、情報を活用する上での視点が学べるようになっている。 ⑧ユニバーサルデザインフォントの使用に加え、図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版か読み取りやすいように配慮されている。 ○地理的事象のしくみや概念がわかるように因果関係を踏まえた上で、具体例を挙げたり図解を掲載したりしてわかりやすく記述されている。	①「節の問いを立てよう」で学習の見通しを持ち、最後に「まとめとふりかえり」に取り組むことで、単元全体の深い学びを実現するようにしている。 ②ページの下の部分に他教科の学習内容に関係していることが書かれている。 ③まとめと振り返りのページでは、他者の意見に対し、自分なりの反対意見を考えるような課題設定がされている。また、巻末に用語解説のページがあり、重要語句を記載している。 ④世界の諸地域の文化や日本の各地の伝統を、写真を用いて説明している。 ⑤小単元が終わるごとに、ディベート、作図、アクティビティ、自由研究など既習事項を活かした体験活動のすすめが書かれている。 ⑥ページの下の部分に小学校で学習した内容に関係していることが書かれている。 ⑦「スキルUP」というグラフの読み取り方について書かれているコーナーがある。ハザードマップの読み取りなども書かれており、防災学習につなげることができる。また、デジタルマークが付いており、WEBページのコンテンツにつながるような設定になっている。 ⑧ユニバーサルデザイン（フォント、カラー）などの工夫がされている。 ○単元の導入部分にある、写真の資料で比較をさせているなど工夫がされている。
（8）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②本文と資料が関連する箇所には、図・写真や他ページへの適切な参照指示が記載され、学習を進めやすくなっている。 ③難しい用語にはふりがなが付され、正しく読めるように配慮されている。	①概ね適切である。 ②インデックスが色分けされている。 ③概ね適切である。ルビの書体などにも工夫がされている。	
（イ） 教科・ 種目別の 観点	①生徒が、各分野における「社会的な見方・考え方（地理的な見方・考え方、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方）」を働かせる学習ができるための工夫や配慮がなされているか。	①写真や図版、本文が密接に関連しているため、地理的事象の背景や因果関係を読み取ることができ、「地理的な見方・考え方」を自然と働かせられるように配慮されている。	①地理的な見方・考え方を繰り返し働かせるようになっている。各ページにおいて概要を大観し、地理の見通しを持たせている。
	②社会的な事象について生徒が多面的・多角的に考察、構想し、表現するための工夫や配慮がなされているか。	②各地域の文化や産業についての歴史的経緯が積極的に記載され、歴史的分野との接続が考慮されている。また、「アクティブ地理」では、歴史的分野や公民的分野とも関連するテーマを設定し、他分野の学習と関連する視点が提示され、多面的・多角的に考察できる工夫がされている。	②単元では課題などが明確に書かれており、比較するポイントが明確化されている。また、「地域課題解決」の中でも多面的に考える大切さが書かれており、多面的・多角的に考える工夫がされている。
	③課題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	③単元を貫く「章・節の問い」、各見開きの「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」、単元の最後の「学習を振り返ろう」というように問いが構造化され、単元を通してそれぞれの問いを考えていくことで、課題解決的な学習ができる構成になっている。	③「議論してみよう」という章を設け、地域課題を解決するための手法が説明されている。